

鳥インフルエンザをめぐる情勢について

令和6年7月16日
消費・安全局動物衛生課

高病原性鳥インフルエンザとは

(1) 原因（病原体）

WOAHが作成した診断基準により高病原性鳥インフルエンザウイルスと判定されたA型インフルエンザウイルス

元気消失



(2) 対象家きん

鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥、七面鳥

(3) 症状・特徴

元気消失、食餌や飲水量の減少、産卵率の低下、顔の腫れ、トサカや脚の変色(紫色)、咳、鼻水、下痢。

急性例ではこれらの症状を認めず、急死する場合もある。

※人獣共通感染症：海外では、家きん等との密接接触に起因する高病原性鳥インフルエンザウイルスの人の感染及び死亡事例も報告。

(4) 発生状況

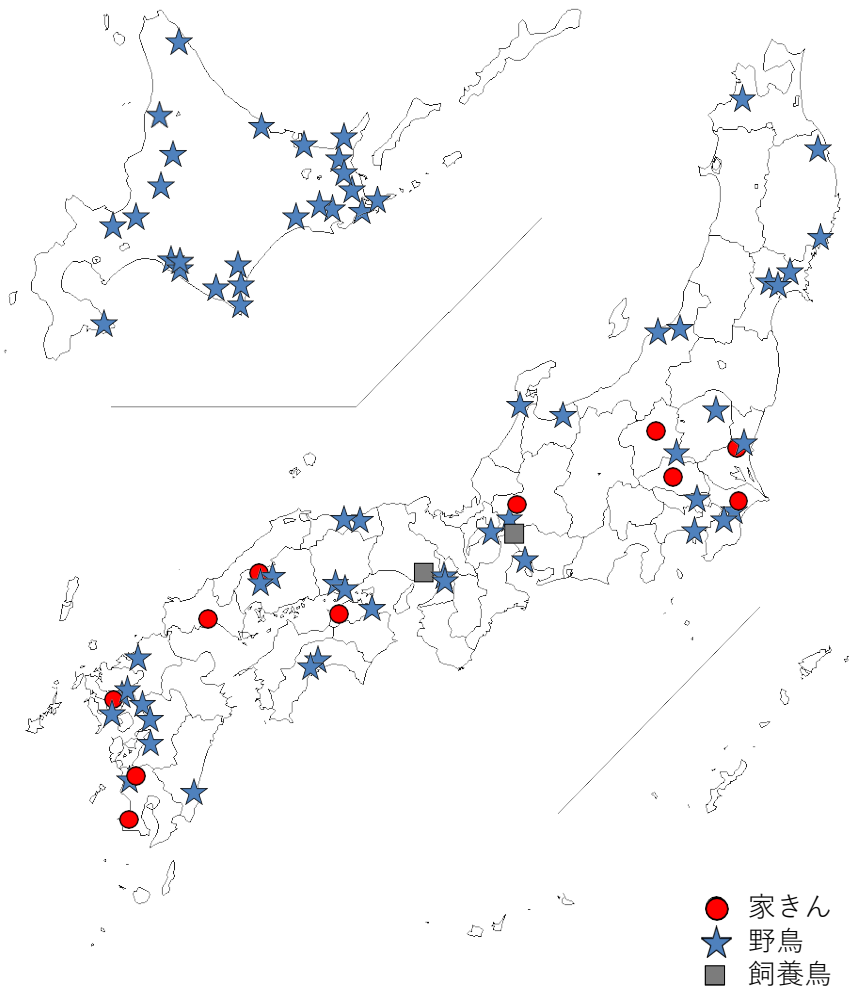
渡り鳥により国内に持ち込まれることが多く、冬期に発生しやすい。我が国において、直近では、平成26、28、29、令和2、3、4、5、6年度に発生。

※内閣府食品安全委員会によると、「我が国の現状においては、鶏肉や鶏卵を食べることにより、鳥インフルエンザがヒトに感染する可能性はないと考える」としている。

鳥インフルエンザの令和 5 年度シーズンと過去シーズンの発生状況

- 令和 5 年度シーズンは、過去のシーズンと比較すると、家きんでの初事例日は遅かったところ。
- 野鳥での感染については、10月 4 日に陽性を初確認。陽性確認件数はこれまでの 4 シーズンで 2 番目に多かった。

令和 5 年度シーズン鳥インフルエンザの発生状況

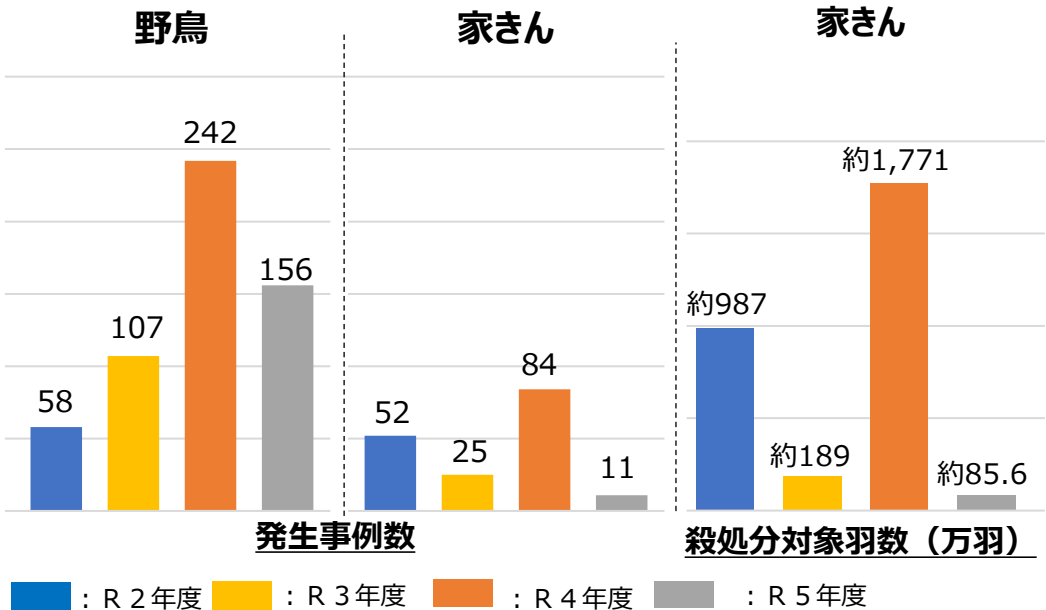


過去シーズンとの比較

(1) 初発、最終確認日

		R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度
野鳥	初発	10月24日	11月8日	9月25日	10月4日
	最終確認	3月3日	5月14日	4月19日	4月30日
家きん	初発	11月5日	11月10日	10月28日	11月25日
	最終確認	3月13日	5月14日	4月7日	4月29日

(2) 発生事例数（野鳥、家きん）、殺処分対象羽数



※野鳥における発生事例数は環境省HP参照

令和5年度 国内における高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ発生状況

○野鳥 28都道府県156事例

※詳細は環境省HP参照 https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/

(令和6年5月20日時点)

検体回収場所	検体回収日	種名	病原性	亜型
1 北海道美幌市	10/4	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
2 北海道釧路市	10/18	ノスリ	HPAI	H5N1
3 北海道釧路市	10/26	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
4 宮城県大崎市	10/27	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
5 宮城県登米市	10/29	オオタカ	HPAI	H5N1
6 北海道別海町	10/25	タンチョウ	HPAI	H5N1
7 北海道厚岸町	10/31	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
8 鹿児島県出水市	11/6	環境試料(水)	HPAI	H5N1
9 鹿児島県出水市	11/11	オナガガモ	HPAI	H5N1
10 鹿児島県出水市	11/12	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
11 北海道標津町	11/6	タンチョウ	HPAI	H5N1
12 岡山県総社市	11/9	ツミ	HPAI	H5N1
13 北海道別海町	11/6	ハクチョウ	HPAI	H5N1
14 鹿児島県出水市	11/8	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
- 北海道釧路市	11/10	マガモ	LPAI	H5N3
15 鹿児島県出水市	11/13	環境試料(水)	HPAI	H5N1
16 岡山県倉敷市	11/13	オナガガモ	HPAI	H5N1
17 千葉県東金市	11/14	糞便(カモ類)	HPAI	H5N1
18 鳥取県鳥取市	11/9	野鳥糞便	HPAI	H5N1
19 鹿児島県出水市	11/19	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
20 北海道中標津町	11/11	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
21 北海道大樹町	11/13	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
22 北海道標茶町	11/14	タンチョウ	HPAI	H5N1
23 北海道別海町	11/15	タンチョウ	HPAI	H5N1
24 宮城県多賀城市	11/18	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
25 鹿児島県出水市	11/20	環境試料(水)	HPAI	H5N1
26 香川県東かがわ市	11/21	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
27 高知県高知市	11/21	ハヤブサ	HPAI	H5N1
28 北海道札幌市	11/24	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
29 鹿児島県出水市	11/24	コガモ	HPAI	H5N1
30 北海道浜頓別町	11/17	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
31 北海道別海町	11/19	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
32 北海道厚岸町	11/19	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
33 北海道湧別町	11/19	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
34 北海道標茶町	11/20	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
35 富山県魚津市	11/21	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
36 北海道湧別町	11/21	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
37 北海道標津町	11/22	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
38 宮城県多賀城市	11/23	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
39 北海道むかわ町	11/22	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
40 北海道標茶町	11/24	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
41 鹿児島県出水市	11/27	環境試料(水)	HPAI	H5N1
42 鹿児島県出水市	11/28	ナベヅル	HPAI	H5N1
43 北海道斜里町	11/26	クマタカ	HPAI	H5N1
44 東京都千代田区	11/28	ノスリ	HPAI	H5N1
45 北海道函館市	11/28	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
46 佐賀県鹿島市	11/25	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
47 北海道中標津町	11/25	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
48 新潟県新発田市	11/28	コハクチョウ	HPAI	H5N1
49 北海道根室市	11/29	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
50 宮城県日南市	11/30	オナガガモ	HPAI	H5N1

検体回収場所	検体回収日	種名	病原性	亜型
51 岐阜県神戸町	11/18	カルガモ	HPAI	H5N1
52 鹿児島県出水市	12/4	環境試料(水)	HPAI	H5N1
53 鹿児島県出水市	12/7	マナヅル	HPAI	H5N1
54 熊本県八代市	12/1	セグロカモメ	HPAI	H5N1
55 北海道釧路市	12/4	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
56 千葉県長柄町	12/5	糞便(カモ類)	HPAI	H5N1
57 鳥取県湯梨浜町	12/2	糞便(カモ類)	HPAI	H5N1
58 鹿児島県出水市	12/10	ナベヅル	HPAI	H5N1
59 北海道根室市	12/1	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
60 北海道別海町	12/4	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
61 佐賀県佐賀市	12/6	ハヤブサ	HPAI	H5N6
62 北海道釧路市	12/7	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
63 茨城県那珂市	12/7	キンクロハジロ	HPAI	H5N1
64 鹿児島県出水市	12/12	マナヅル	HPAI	H5N1
65 鹿児島県出水市	12/11	環境試料(水)	HPAI	H5N1
66 滋賀県米原市	12/12	糞便(カモ類)	HPAI	H5N1
67 北海道えりも町	12/11	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
68 長崎県諫早市	12/12	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
69 北海道広尾町	12/12	オジロワシ	HPAI	H5N1
70 北海道えりも町	12/13	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
71 鹿児島県出水市	12/18	マナヅル	HPAI	H5N1
72 鹿児島県出水市	12/18	ナベヅル	HPAI	H5N1
73 福岡県福岡市	12/16	ハマシギ	HPAI	H5N1
74 青森県五所川原市	12/19	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
75 鹿児島県出水市	12/18	環境試料(水)	HPAI	H5N1
76 鹿児島県出水市	12/21	ナベヅル	HPAI	H5N1
77 大阪府大阪市	12/13	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
78 鹿児島県出水市	12/14	環境試料(ハエ)	HPAI	H5N1
79 北海道えりも町	12/19	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
80 高知県土佐市	12/20	ヒドリガモ	HPAI	H5N1
81 鹿児島県出水市	12/23	ナベヅル	HPAI	H5N1
82 鹿児島県出水市	12/25	環境試料(水)	HPAI	H5N1
83 神奈川県横須賀市	12/28	フクロウ	HPAI	H5N1
84 北海道浜中町	1/8	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
85 北海道札幌市	1/8	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
86 北海道札幌市	1/9	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
87 群馬県太田市	1/15	オオタカ	HPAI	H5N1
88 北海道札幌市	1/11	カラス	HPAI	H5N5
89 北海道札幌市	1/12	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
90 北海道浦河町	1/11	オジロワシ	HPAI	H5N1
91 熊本県玉名市	1/17	ハヤブサ	HPAI	H5N5
92 北海道釧路市	1/18	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
93 北海道札幌市	1/17	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
94 北海道札幌市	1/18	ハシボソガラス	HPAI	H5N1
95 熊本県熊本市	1/23	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
96 北海道札幌市	1/22	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
97 北海道札幌市	1/26	ハシボソガラス	HPAI	H5N1
98 北海道函館市	1/26	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
99 北海道浜中町	1/27	オオハクチョウ	HPAI	H5N1
100 北海道函館市	1/30	ハシブトガラス	HPAI	H5N1

検体回収場所	検体回収日	種名	病原性	亜型
101 北海道函館市	2/1	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
102 北海道札幌市	2/5	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
103 北海道札幌市	2/6	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
104 北海道札幌市	2/7	ハシブトガラス	HPAI	H5N1 H5N5
105 岩手県久慈市	2/8	ノスリ	HPAI	H5N1
106 大阪府堺市	2/13	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
107 石川県羽咋市	2/13	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
108 北海道札幌市	2/9	カラス	HPAI	H5N5
109 北海道札幌市	2/10	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
110 北海道札幌市	2/13	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
111 北海道釧路市	1/6	オジロワシ	HPAI	H5N1
112 大阪府堺市	2/14	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
113 大阪府堺市	2/15	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
114 大阪府堺市	2/19	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
115 北海道札幌市	2/19	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
116 愛知県常滑市	2/20	ホシハジロ	HPAI	H5N5
117 北海道日高町	2/19	クマタカ	HPAI	H5N1
118 大阪府堺市	2/26	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
119 北海道札幌市	2/26	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
120 岩手県大船渡市	2/28	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
121 岩手県大船渡市	2/29	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
122 岩手県大船渡市	3/1	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
123 岩手県大船渡市	3/2	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
124 岩手県大船渡市	3/3	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
125 岩手県大船渡市	3/4	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
126 大阪府堺市	3/4	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
127 新潟県新潟市	3/4	ノスリ	HPAI	H5N1
128 岩手県大船渡市	3/5	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
129 岩手県大船渡市	3/6	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
130 岩手県大船渡市	3/8	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
131 岩手県大船渡市	3/8	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
132 岩手県大船渡市	3/9	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
133 岩手県大船渡市	3/11	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
134 岩手県大船渡市	3/12	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
135 岩手県大船渡市	3/13	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
136 北海道釧路市	3/11	カケス	HPAI	H5N1
137 広島県北広島町	3/12	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
138 北海道札幌市	3/17	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
139 北海道深川市	3/15	ハヤブサ	HPAI	H5N1
140 広島県北広島町	3/16	ハシボソガラス	HPAI	H5N1
141 岩手県大船渡市	3/19	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
142 北海道江別市	3/22	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
143 北海道網走市	3/23	オジロワシ	HPAI	H5N1
144 北海道札幌市	3/25	ハシブトガラス	HPAI	H5N5
145 北海道札幌市	3/28	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
146 広島県北広島町	4/4	ハシボソガラス	HPAI	H5N1
147 栃木県那須塩原市	4/8	フクロウ	HPAI	H5N1
148 北海道札幌市	4/7	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
149 北海道札幌市	4/10	ハシブトガラス	HPAI	H5N1
150 北海道札幌市	4/11	ハシブトガラス	HPAI	H5N1

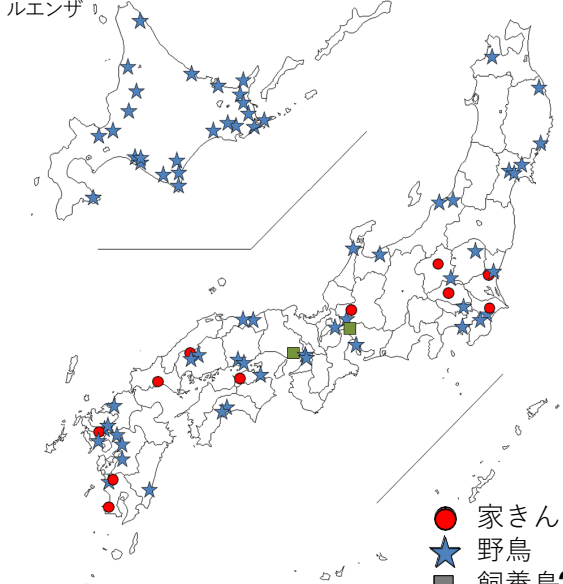
○家さん 10県11事例

地域	疑似患畜判定日	用途	羽数(約)	亜型
1 佐賀県鹿島市	11/25	採卵鶏	4万羽	H5N1
2 茨城県空間市	11/27	採卵鶏	7.2万羽	H5N1
3 埼玉県毛呂山町	11/30	採卵鶏	4.5万羽	H5N1
4 鹿児島県出水市	12/3	採卵鶏	2.3万羽	H5N1
5 群馬県高山村	1/1	採卵鶏	36万羽	H5N1
6 岐阜県山県市	1/5	肉用鶏	5万羽	H5N1
7 山口県防府市	1/27	採卵鶏等	23羽	H5N1
8 香川県三豊市	2/6	採卵鶏	7万羽	H5N1
9 鹿児島県南さつま市	2/11	肉用鶏	5400羽	H5N6
10 広島県北広島町	3/12	採卵鶏	8万羽	H5N1
11 千葉県富里市	4/29	採卵鶏	6.3万羽	H5N1

○飼養鳥 2県2事例

検体回収場所	検体回収日	種名	病原性	亜型
1 岐阜県海津市	11/23	タカ科	HPAI	H5N1
2 兵庫県神戸市	12/14	モモアカノスリ	HPAI	H5N1

※HPAI：高病原性鳥インフルエンザ LPAI：低病原性鳥インフルエンザ



● 家さん
★ 野鳥
■ 飼養鳥

過去の発生事例～近年の高病原性鳥インフルエンザの発生とその対応

＜平成15年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

1～3月…3府県4事例 約27万羽（山口県、大分県、京都府）
（※我が国で79年ぶりとなる高病原性鳥インフルエンザの発生）

＜平成18年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

1～2月…2県4事例 約16万羽（宮崎県、岡山県）

＜平成22年度の発生＞ H5N1亜型（高病原性）

11～3月…9県24事例 約183万羽（島根県、宮崎県、鹿児島県、愛知県、大分県、三重県、奈良県、和歌山県、千葉県）

＜平成26年度の発生＞ H5N8亜型（高病原性）

4月…1県1事例 約10万羽（熊本県）
12～1月…4県5事例 約35万羽（宮崎県、山口県、岡山県、佐賀県）

＜平成28年度の発生＞ H5N6亜型（高病原性）

11～3月…9道県12事例 約166万羽（青森県、新潟県、北海道、宮崎県、熊本県、岐阜県、佐賀県、宮城県、千葉県）

＜平成29年度の発生＞ H5N6亜型（高病原性）

平成30年1月…1県1事例 約9.1万羽（香川県）

＜平成17年度の発生＞ H5N2亜型（低病原性）

6～12月…2県41事例 約578万羽（茨城県、埼玉県）

＜平成20年度の発生＞ H7N6亜型（低病原性）

2～3月…1県7事例（うずら） 約160万羽（愛知県）

※野鳥における発生（高病原性）

・平成20年 全3県
・平成22～23年 全16県
（他3県における動物園等の
飼育鳥からウイルスを確認）

・平成26～27年 全6県12例（H5N8型）
・平成28～29年 全22都道府県 218例（H5N6型）
・平成29～30年 全3都県45例（H5N6型）
・令和2～3年 全18道県58例（H5N8型）
・令和3～4年 全8道府県107例（H5N1型/ H5N8型）
・令和4～5年 全26道県184事例（H5N1型/H5N2型/H5N8型）
（飼養鳥全5県8事例（H5N1型））
・令和5～6年 全28都道県154事例（H5N1型/H5N3型/H5N5型/H5N6型）
（飼養鳥全2県2事例（H5N1型））

＜令和2年度の発生＞ H5N8亜型（高病原性）

11～3月…18県52事例 約987万羽（香川県、福岡県、兵庫県、宮崎県、奈良県、広島県、大分県、和歌山県、岡山県、滋賀県、高知県、徳島県、千葉県、岐阜県、鹿児島県、富山県、茨城県、栃木県）

＜令和3年度の発生＞ H5N1亜型／H5N8亜型（高病原性）

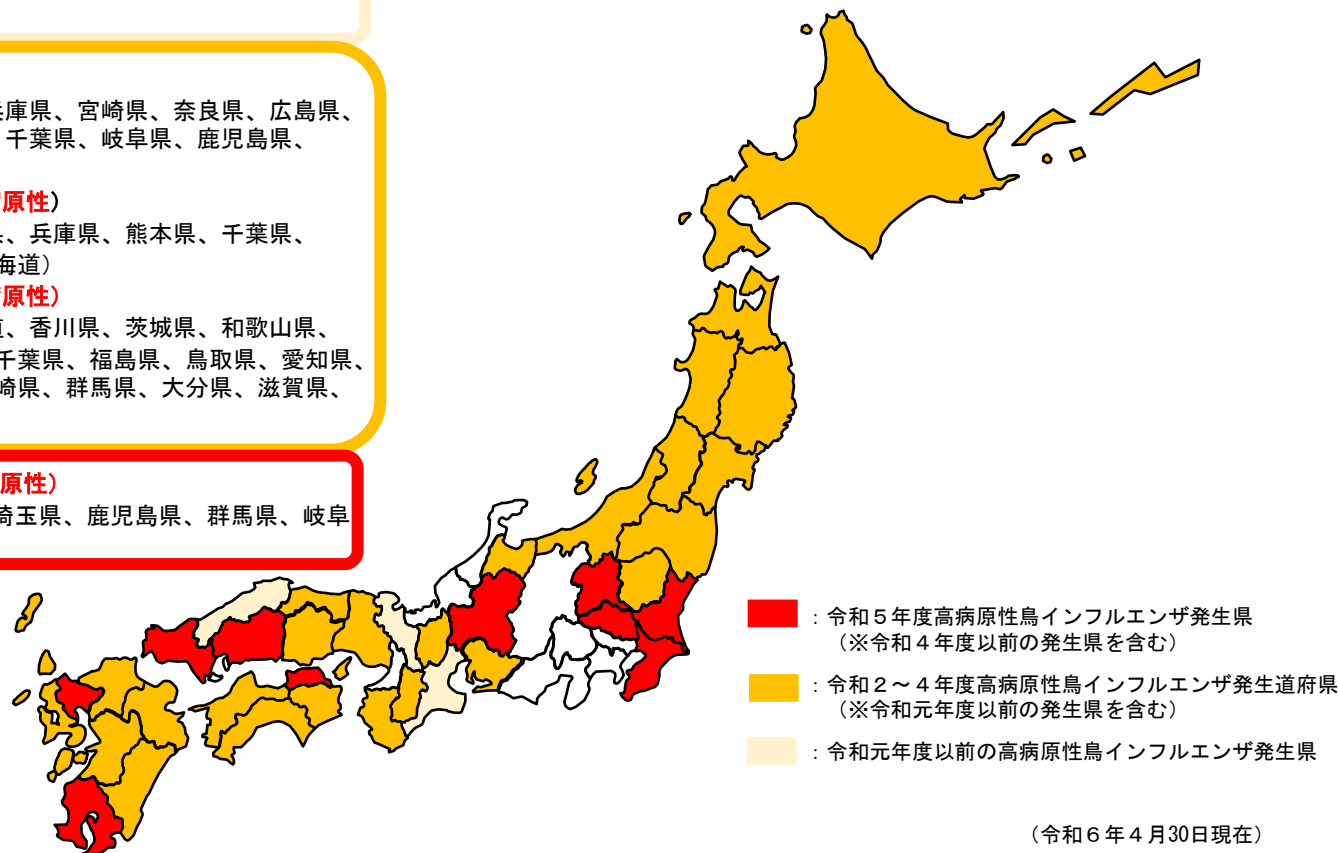
11～5月…12道県25事例 約189万羽（秋田県、鹿児島県、兵庫県、熊本県、千葉県、埼玉県、広島県、青森県、愛媛県、岩手県、宮城県、北海道）

＜令和4年度の発生＞ H5N1亜型／H5N2亜型（高病原性）

10～4月…26道県84事例 約1,771万羽（岡山県、北海道、香川県、茨城県、和歌山県、兵庫県、鹿児島県、新潟県、宮崎県、青森県、宮城県、千葉県、福島県、鳥取県、愛知県、佐賀県、山形県、広島県、沖縄県、埼玉県、福岡県、長崎県、群馬県、大分県、滋賀県、岩手県）

＜令和5年度の発生＞ H5N1亜型／H5N6亜型（高病原性）

11～4月…10県11事例 約85.6万羽（佐賀県、茨城県、埼玉県、鹿児島県、群馬県、岐阜県、山口県、香川県、広島県、千葉県）



（令和6年4月30日現在）

米国の乳牛における高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）について

乳牛における感染状況等

2024年7月5日
農林水産省消費・安全局動物衛生課

○ 12州140農場（2024年7月5日時点）

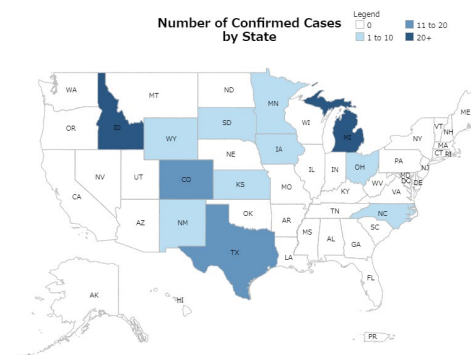
〔テキサス州、カンザス州、ミシガン州、ニューメキシコ州、アイダホ州、オハイオ州、ノースカロライナ州、サウスダコタ州、コロラド州、ワイオミング州、アイオワ州、ミネソタ州〕

○ 牛の臨床所見は、食欲低下、泌乳量減少等。重症例では粘稠な乳の排出等。死亡率が高い鶏への感染と異なり、牛の症状は比較的軽く10日程度で回復。

○ ウイルスは野鳥や家きん等に感染するウイルスと同様のH5N1亜型。初期は野鳥から乳牛へ感染したとみられるが、乳牛は乳中にウイルスを多く排出するため、搾乳作業を介して牛から牛への感染が起こったと推定。

○ 州間伝播は牛の個体移動により起こり、酪農場間伝播は搾乳作業に加えて、作業員、牛の運搬車などによる可能性があると考えられる。家きん農場への伝播も疫学調査が進められている。

○ 2024年4月29日以降、州境を越えて移動する搾乳牛に対しては、HPAI検査を義務付け。



米国農務省（USDA）ウェブサイトより

牛乳・乳製品、牛肉の安全性、人への感染リスク

○ 市販されている牛乳・乳製品の原料はほぼ全て加熱殺菌されている。このため、米国食品医薬品局（FDA）は、引き続き消費者の健康リスクに懸念はないとの見解。市場に流通する牛乳・乳製品の調査において、これまでウイルスは検出されていない。

○ 肉用牛で本病は確認されていない。USDAは、と畜場における検査により牛肉の安全性は確保されているとの見解。市場に流通するひき肉での調査において、これまでウイルスは検出されていない。

○ 2024年4月1日以降、感染した牛と接触した4名のHPAI感染を確認。1例目、2例目及び4例目は目の症状のみ、3例目は咳などの上気道症状及び目の不快感を示したが、いずれも軽症で回復済み又は回復中と報告。ウイルス解析の結果、人への感染性を上昇させる遺伝子変異はこれまでに確認されておらず、米国疾病予防管理センター（CDC）は、一般市民に対する感染リスクは低いままであるとの見解。

農林水産省の対応状況

○ 都道府県に対し、牛の飼養管理者、獣医師等に対する本事例の周知、野鳥等から牛への感染を防止する基本的な飼養衛生管理の徹底及び食欲低下、乳量減少等がみられた場合の獣医師又は家畜保健衛生所への相談についての注意喚起とともに、感染が疑われる事例があった場合の連絡を要請（2024年4月3日）。

ホーム > 消費・安全 > 家畜の病気を防ぐために > その他の家畜の疾病情報

米国における乳牛の高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）に関する情報

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/other_diseases.html

Q&Aも掲載

米国における牛のHPAIウイルス感染の状況を教えてください。

2024年3月、米国カンザス州及びテキサス州の乳牛においてHPAIウイルス（H5N1亜型）の陽性が確認され、その後、複数の州の農場（すべて乳牛）で感染が確認されています（2024年7月5日時点で、12州140農場）。

※ 最新の状況は、米国農務省（USDA）ウェブサイトをご確認ください。

<https://www.aphis.usda.gov/livestock-poultry-disease/avian/avian-influenza/hpai-detections/livestock>

牛はどのように感染したのですか。

野生の渡り鳥がウイルスのもともとの由来と考えられていますが、米国におけるこれまでの調査では、牛の移動によって感染したケースも確認されています。

乳牛では、乳中に多くのウイルスが検出されることから、搾乳作業を介したウイルスが伝播すると考えられています。一方、呼吸器サンプルからは高濃度のウイルスは検出されておらず、呼吸器を介した感染は主要な感染経路ではないと考えられています。

また、州間伝播は乳牛の個体移動によるもの、酪農場間伝播は搾乳作業に加えて、作業車、牛の運搬車などによる可能性があると考えられています。

ウイルスは野鳥や家きんのインフルエンザウイルスと同じですか。

乳牛から検出されるウイルスは、H5N1亜型（clade 2.3.4.4b）のHPAIウイルスであり、野鳥や家きん（稀に野生ほ乳類）から検出されるウイルスと同じグループです。

これまでの解析結果によると、人への感染性を上昇させるような遺伝子変異は見られていないということです。

一方でウイルスの遺伝子解析の結果から、これまでに酪農場から家きん農場への伝播事例

米国では牛での感染拡大防止のためどのような対策がとられていますか。

2024年4月24日付け連邦命令により、4月29日以降、州境を越えて移動する搾乳牛にHPAI検査を行うことが義務付けられました（と畜場へ直行する牛は検査の対象外）。

USDAでは、感染牛は致死性ではなく回復することから、感染牛や牛群の殺処分は必要ではないとしており、感染牛は他の牛群から隔離されているということです。

その他、牛の移動は可能な限り控えること、臨床症状を示す牛は農場から移動させないこと、農場に出入りする牛は30日間隔離すること、牛を移動させる場合は健康な牛に限ること等が推奨されています。

牛乳や乳製品の流通に影響があるでしょうか。

米国食品医薬品局（FDA）及びUSDAによれば、市販されている牛乳・乳製品の原料はほぼ全て加熱殺菌されていること、また病気の牛に由来する乳は市場に出荷されないことから、市場における乳の供給は安全性が確保されているとしています。また、現時点で乳牛における感染は非常に限定的であり、牛乳・乳製品の供給や価格に大きな影響はないとしています。

なお、FDAでは、市場に流通する牛乳や乳製品のサンプル調査を行っており、HPAIウイルスの断片は検出されていますが、ウイルスは検出されておらず、加熱殺菌が有効であるとしています。

肉用牛の感染事例はあるのでしょうか。

米国では、これまでのところ肉用牛の感染は確認されていません。

USDAでは、と畜場において病気の牛が食用に供されないよう検査が行われており、牛肉の安全性は確保されているとしています。

なお、USDAでは、市場のひき肉サンプルの調査を行っており、これまでウイルスは検出されていません。

2023～2024年シーズンの高病原性鳥インフルエンザの疫学調査結果のポイント

〈注〉赤字は新たな知見・提言

発生事例から得られた知見	気を付けていただきたいこと〈提言〉
（１）重点対策期間 ○今シーズンは10月4日にカラスで陽性例が確認されており、それ以前ウイルスが持ち込まれていたとみられる。 ○今シーズンの家きん発生のピークは11月及び1月、野鳥感染では11月であり、過去も同様。	➤ 特に11月～翌年1月までは重点対策期間として対策を徹底。 ➤ 渡り鳥の渡来及び北帰行の時期が異なる地域では地域の実情に応じ期間を設定。
（２）農場・家きん舎への人・物を介したウイルス侵入防止 ○今シーズンの発生数の減少については、複数の要因が考えられる中、昨シーズンを受けた生産者の飼養衛生管理の向上も寄与していると考えられる。 ○他方、発生農場では基本的な飼養衛生管理が十分実施されておらず、消毒・行為等の不備により人を介してウイルスが持ち込まれた可能性のある事例、鶏舎の壁の穴・防鳥ネット設置の不備等により、野鳥等を介してウイルスが持ち込まれた可能性がある事例があった。また、家保への定期報告とも齟齬がある事例が見られた。	➤ 家保やかかりつけ獣医師等の有識者の第三者の視点や、<u>飼養衛生管理支援システム</u>も利用しながら、自らの農場の<u>飼養衛生管理基準の順守状況を正しく理解・評価</u>し、様々なところにウイルスの侵入リスクがあることを念頭に置いて衛生管理の向上に努める。 ➤ <u>改善指導した家保は、指導のみで終わらせることなく、飼養者による改善措置が確実に実施されたことを確認する。この際、期限を設けて写真等とともに改善報告させることも有効。</u>
（３）既発農場における対策 ○2例目（茨城県）、4例目（鹿児島県）で昨年の発生農場において再発。再発農場では、<u>経営再開時に衛生対策・施設の改善が確認されているものの、継続的な飼養衛生管理が行われていないと考えられる点がみられた。</u> ○過去、本病の発生があった農場・周辺地域は、既に本病が発生する環境要因がそろっており、本病の発生リスクが特に高い地域であることを認識する必要。	➤ <u>飼養者は（２）の取組を通じ、飼養衛生管理基準の順守状況を正しく理解・評価することが求められる。</u> ➤ <u>都道府県においては、これらの農場・周辺地域の農場の飼養衛生管理の状況を確認するとともに、（２）の取組も用いつつ、シーズンを通じて飼養衛生管理の実効性が担保されるよう、重点的に指導することが重要。</u>

発生事例から得られた知見	気を付けていただきたいこと＜提言＞
（４）農場周辺の水場・環境での野鳥・野生動物対策 ○発生農場の近隣では水場が多く観察されたほか、有機肥料工場がある事例や、餌に誘引されたカラスが上空を飛んでいる事例があった。 ○野生動物の生息に適した雑木林等がある事例も多かった。	➤農場周辺のため池等の水抜きや、周辺施設においてカラス等の野鳥を誘引する状況を作らないなど、<u>地域が一体となった対策の実施。</u> ➤農場においても、<u>家さん舎及び堆肥舎での防鳥ネット等の適切な使用、餌タンク等の清掃、集卵ベルトのシャッター設置、死体・廃棄卵の適切な処理等が重要であり、デグス等の効果的な使用も追加対策として有効。</u>
（５）早期通報の徹底 ○死亡増加の始まりから通報まで数日を要した例では4例中3例で環境材料においてウイルスを検出、それ以外の例では7例中1例でウイルスを検出した。 ○早期発見・早期通報は周辺農場へのまん延リスク低減対策としても重要。	➤<u>都道府県は、まん延リスクを減らすため、飼養者に対し早期発見・早期通報の徹底を指導するとともに、飼養者は毎日健康観察を適切に行い、異状を確認次第家保に通報。</u>なお、特定症状を示している場合は他の伝染性疾病が疑われる場合であっても、速やかに家保に通報しなければならない。 ➤<u>防疫作業における優良事例の共有、作業者の育成を行うとともに、殺処分対象羽数を減らすための分割管理の推進。</u>
（６）情報収集・調査研究 ○我が国へのHPAIの侵入リスクの予察及び低減のためには、海外の発生状況、国内の感染状況の調査・監視が重要。	➤海外の発生状況や国内の家さん・野鳥に由来するウイルスの遺伝子解析等を実施。 ➤<u>じん埃、ハエ等を介した侵入リスクの検証を実施。</u>
（７）その他 ○2024年3月以降、米国において乳牛におけるHPAIの感染が確認されている。米国から日本への生体牛の輸入は2003年以降停止されており、感染牛が日本に入ることはない。	➤牛の飼養農場においてはHPAIVに限らず、野鳥等からの感染防止のため、基本的な飼養衛生管理の徹底を図ることが重要。都道府県は、飼養牛に乳量の減少、食欲低下等が見られた場合には、隔離の上家保等に連絡するよう指導するとともに、原因が特定されない場合には、HPAIの可能性も考慮する。